IGARASHI
AOI

五十嵐碧

いがらし　あおい

1997年７月19日生まれ。釧路市出身。釧路北陽高校卒業後、日本女子体育大学へ進学し、保健体育の教員免許を取得する。趣味は映画鑑賞、釣り。北陽高校のハンドボール部で外部講師を務めている。両親、妹との４人暮らし。

「女性の消防士だから相手に寄り添えることもある」

釧路西消防署白糠支署に初の女性消防士が誕生した。釧路市出身の五十嵐碧さん(24歳)。消防士２年目の五十嵐さんは釧路市中央消防署愛国支署から、今年の４月に白糠支署へ配属された。男性の職場というイメージが強い消防士への道を選んだのはどうしてだろうか。きっかけは東日本大震災だった。

「海のほか、陸でも災害で困っている人を助けている海上自衛隊の活動を見て、自分もこういう仕事がしたいと思いました。それでいろいろと調べているうちに、女性の消防士がいることを知りました。消防士ならば地元で身近な人を助けることができると思いました」

五十嵐さんは小さな頃から水泳や空手、陸上、高校と大学ではハンドボールを習い、体力には自信があった。それでも男性との違いを感じるという。

「体を使う仕事なので、毎日トレーニングをしていますが、それでも体力面では男性に劣っている部分がありますので、男性と同じ行動をしていては差が出てしまいます。たとえば、消防ホースを男性と同じだけ持つことができないのであれば、どうやれば効率よく持ち運ぶことができるのか、そういうことを考えながら訓練をしています」

五十嵐さんは女性というハンデを感じながら、一方では、女性ならではの強みもあるという。

「傷病者には、女性や小さなお子さんもいますので、中には『男性に抵抗がある』という方もいらっしゃいます。男性には言いづらいこともありますよね。女性の消防士だからこそ相手に寄り添えることがあると思うんです。『女性の消防士さんがいて安心した』と言ってもらえたときは、うれしかったです」

消防には水難事故に備えた『水難救助隊』がある。水難救助隊は「潜水士」の資格を持った消防士の中から任命されるが、女性の水難救助隊はいない。水難救助隊は、何十㌔もある潜水器具などを装備して、水中で遭難者を救助するというとてもハードな仕事だからだ。しかし、五十嵐さんは潜水士の資格を取得し、水難救助隊に入ることを目指している。

「父親に釣りに連れて行ってもらい、釣りも好きなんですが、海も好きなんです。広くて大きな海を見ていると心地よい。泳ぐのも得意なので、それを生かして海で人助けをする水難救助隊に入りたいんです。潜水士の資格を取ったからといって水難救助隊に入れるかどうかは分かりませんが、これは挑戦だと思っています。自分がどこまでできるのかを試してみたい。女性でもできるということを証明し、可能性を広げることができたらいいなと思っています。そして、いつか女性初の水難救助隊になれたらなと、それが今の目標です」

ストイックにトレーニングをしているイメージの五十嵐さんですが「ちゃんと甘いものも食べています」と、女性らしい一面も。